



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/22 (月)	+ 600	+ 10,400	+ 11,000	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y)	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 200 国債補完供給 + 21,400		
7/23 (火)	+ 1,000	▲ 5,000	▲ 4,000	流動性供給			日: 基調的なインフレ率を補足するための指標
7/24 (水)	トン	+ 6,000	+ 6,000		共通担保 ▲ 8,000 社債等買入 + 750		米: 卸売在庫 (6月) 米: 製造業・サービス業PMI (7月) 欧: 製造業・サービス業PMI (7月)
7/25 (木)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (40年)			米: GDP (2Q, 速報値) 米: 耐久財受注 (6月)
7/26 (金)	トン	▲ 2,000	▲ 2,000				米: 個人所得・支出 (6月) 米: 個人消費支出物価指数 (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3兆900億円減少の539兆7,600億円から始まった。その後、国債買入オペ、国債発行等の要因により増減し、19日には544兆2,000億円（速報）となり越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物が0.14%~0.29%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、海外では24日に米製造業・サービス業PMI（7月）の公表、25日に米GDP（2Q、速報値）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.15 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.30 ~ 0.50

<レポ>

足許GCは週初+0.05%~+0.07%のレンジで取引され、輪番オペがオファーされた10日は+0.03%台まで低下した。

翌18日は+0.01%近辺から出会い始め、後場には▲0.02%台の出会いも見られた。

短国の発行が重なる19日には+0.05%近辺から取引が始まり、+0.09%台まで上昇した。

SC取引は2年450~462回債、5年149~170回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.15 ~ 0.35

<CP>

今週の入札発行総額は約8,700億円で、週間償還額の8,100億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆1,854億円から7月18日時点で24兆6,247億円に増加した。発行市場は輸送用機器、電気機器、鉱業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.15%近辺から0.3%台での出会いであった。

来週の償還額は、8,100億円となっている。発行市場は、週後半にかけて月末の資金調達ニーズが高まり、相応の発行が見込まれる。発行レートは、7月30・31日に開催される日銀金融政策決定会合での政策修正の動向を睨みながら、上昇することが予想される。1Mでは、0.1%台後半から0.2%台の出会い、3M超の案件については0.3%台後半の出会いも散見されるであろう。

26日にCP等買入れオペが3,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

18日の1Y (1244回債) の入札は、最高落札利回り0.1793% (前回債0.1492%)、平均落札利回り0.1672% (前回債0.1391%) となった。

19日の3M (1245回債) の入札は、最高落札利回り0.0220% (前回債0.0180%)、平均落札利回り0.0192% (前回債0.0132%) となった。

来週の入札は、28日に3Mが予定されている。